

入賞者多数 女子は総合二連覇

陸上競技部 関東インカレ奮闘



5月23日より第98回関東学生陸上競技対校選手権大会(関東インカレ)が相模原ギオンスタジアム(神奈川県)で開催された。4日間わたる熱戦の末、男子総合は7位、女子総合の部では大会2連覇を果たした。

1日目は女子部10000mで上田雪菜選手(体育4年、奈良・奈良育英高)が33分50秒62で第三位に入賞を果たした。フィールド競技では1部女子棒高跳で塩崎泉(体育1年、至学館高・愛知)が第6位に入賞、1部女子走幅跳では高良彩花(体育1年、兵庫・園田学園高)6m26で年々ながら優勝し、チームに活気を与えた。1部女子円盤投では、2018年福井国体で5位入賞した小松真琴(体育1年、茨城・土浦湖北高)が48m25で2位入賞。昨行われた日本学生陸上競技対校選手権大会(通称日本インカレ)で5位入賞した半田水晶(体育4年、群馬・太田女子高)が48m19で3位に入賞、女子2部円盤投では辻川美乃利(人間総合科学研究科2年、大阪・生野高)が大会新記録の52m18で優勝し、得意のフィールドで得点を重ねた。



2日目ではフィールド競技の活躍が目立った。まず2日目最初の決勝種目となった女子1部インカレにおいて関口清乃(体育4年、埼玉・進修館高)、渡邊ももこ(体育1年、福井・敦賀高)、真鍋綾萌(体育1年、岡山・玉野光南高)が出場。関口選手は6回目の投擲で59m86を出し見事優勝、大会2連覇を果たした。試技順が関口選手の次だった渡邊選手も同じく6回目の投擲で59m50を出し、見事3位に入賞。真鍋選手も51m30で6位につけ、1部女子ハンマー投は大量17点を獲得した。

1部男子砲丸投では羽生田智(体育3年、埼玉・山村学園高)が16m61でパーソナルベストを更新して2位に入賞。松田貴汰(体育1年、大阪・咲くやこの花高)も15m82で同じくパーソナルベストを更新、6位に入賞した。

1部女子やり投では、日本インカレで2位入賞している、桑添友花(体育3年、宮城・古川黎明高)が最後の投擲で56m72を出し優勝して大会2連覇を果たした。兵藤秋穂(体育2年、宮城・古川黎明高)も最後の投擲で2m以上記録を伸ばして2位入賞を果たし、二人で15点を獲得し総合優勝に向けて弾みをつけた。

トラックでは女子4x100mが観客を沸かせた。予選では45・97でフィニッシュし、全体の3番目のタイムで予選通過。決勝では46・24で5位、5年ぶりの入賞を果たした。

3日目は女子三段跳で大会3連覇がかかった関口選手が主将の剣持クリア(体育4年、山梨学院高)が女子三段跳に出場。順天堂大学2年の中村紗華に敗れるも、最後の跳躍で記録を16cm伸ばし、2位入賞した。

男子2部400mと女子2部400mにおいて新城雄基(人間総合科学研究科修士1年、千葉・専修大学松戸高)が51・55で大会新記録、伊藤明子(人間総合科学研究科修士2年、東京・田園調布学園高)が58・92で同じく大会新記録を出し、層の厚さを見せた。

最終日の4日目は勢いが止まらない筑波大学。男子1部1000mで6位入賞している山下潤(体育4年、福島・福島高)が20・47で優勝、2連覇を果たした。(2000mという種目名がありません)

女子1部七種では橋本春菜(体育3年、茨城・水戸第二高)、池田涼香(体育1年、京都・鳥羽高)、シュレスタマヤ(体育3年、大阪・東大阪敬愛高)が出場。橋本は5245点でパーソナルベストを更新し、前回大会の6位から順位を上げて3位、池田は4位、シュレスタは5位に入賞し、15点を獲得した。

結果、女子はトラック22点、フィールド77点、七種15点の合計114点で優勝。大会2連覇を果たした。特にフィールド競技においてはすべての種目で入賞し、筑波大のフィールドの強さを見せた。

女子主将の剣持選手に試合後インタビューを行った。「関東インカレは新チームになって初めての対校戦で、前半はまだ全体的に盛り上がりは欠けたところがあった感じがしたけど、日に日にチームとしてのまとまりも出てきて応援も素晴らしいものになって厚さを見せた。」

筑波スポーツ

令和元年7月4日(木)
第178号

題字:中山雅史氏
(元サッカー日本代表・蹴球部OB)

たと感じた。個人個人は様々な思いを抱いたが、その中でも多くの部員が仲間のために一生懸命応援していたので、良い雰囲気だったのでは。」と語った。また、女子総合優勝の要因を聞くと、「一番の要因は、大きな期待のかけがえのない4年生と1年生がしっかりと得点を取ってくれたこと。また、その他の選手も取りこぼしたところを補うかのように最終日まで一人一人が実力を発揮し入賞出来ていたことも総合優勝に繋がった。」とインカレに向けて、「日



編集部は見た 筑波大の活躍

蹴球部

硬式野球部

5月29日、記録的な猛暑（体育1年、千葉・柏U18）となった週末から転、肌寒い気温の中、キックオフとなった。今回の試合は、関東大学サッカーリーグ1部の第7節、首位の明治大学と勝ち点1差の2位で追う筑波大学は流通経済大学と対戦。4月に行われた天皇杯茨城県予選の茨城県サッカー選手権大会では、流通経済大学と準決勝で激突するも、3-3から突入したPK戦の末に敗れていた。茨城ダービー、そして4月のリベンジマッチとなるこの試合に選手たちは雪辱を果たすべく臨んだ。

前半は度々チャンスが訪れるも、ゴールを阻まれてしまう。前半20分に森海渡選手（体育1年、千葉・柏U18）がGKとの1対1の場面を迎えるが、相手GKに止められ、さらに前半終了間際には、山原怜音選手（体育2年、福島・JFAアカデミー）がFKを狙うがこれも相手GKに止められてしまう。

なかなかゴールを決めきれない中、後半14分、ボールを持った山原選手は右サイドから中央へドリブルで攻め込んでいき、ゴール手前約35メートルの位置から左足の閃。強烈なシュートはゴール右隅に突き刺さり、これが決勝弾となった。

この日はトゥーロン国際大会に出場するU22日本代表に選出された三宮薫選手（体育4年、神奈川県・川崎フロンターレU18）や、U20全日本大学選抜で韓国遠征を行なっている池谷祐輔選手（体育2年、神奈川・川崎フロンターレU18）、櫻庭立樹選手（体育2年、北海道・北海道コンサドーレ札幌U18）が不在の中でのような戦い方を見せるか注目の試合だった。しかし、岩本翔選手（体育1年、大阪・ガンバ大阪ユース）やリーグ戦デビューとなった三浦雅人選手（体育1年、東京・東京ヴェルディユース）の1年生コンビの活躍、山原選手のスーパーミドルシュートにより勝利を収めた。

筑波大学は第8節を終えて、現在3位。昨季は惜しくも2位で終わってしまったが、今季はここから首位を奪還する姿を期待したい。筑波大学蹴球部の活躍からこれからも目が離せない。（舩本暖葉）

第2週2日目
対桜美林大学 0対1
4月7日、リーグ初戦を勝利で飾った筑波大学は桜美林大学と対戦した。試合は二回裏、先頭の四番田中（体育3年・福岡大大濠高）が右方向に引張ってホームランを放つ。その後は筑波大学先発の村木（体育3年・静岡高）と桜美林大学先発の安高が互いにランナーを出しても、得点を与えない。五回表、村木は二死から一・三星のピンチを招く。センターへ抜けるかという当たりをショート小川（体育1年、北海道・札幌）が好捕し、ピンチをしのいだ。筑波大学は好守備と無失点を続け、七回からはサブマリンの藪崎（体育4年、千葉・県立船橋高）にスイッチして逃げ切り、0対1で今季初の勝ち点を手にした。

試合後、村木投手は「今日は後ろにもピッチャーが控えていたので、与えられたインニングをゼロで抑えられるよう、ランナーを出してから気迫を出して抑えました。先発なので長いインニングを投げるといことが大切なんですけれども、目先のことを考えすぎずに目の前のインニングインニングをゼロに抑えようという気持ちで投げました。来週以降も苦しい試合になると思うので、ピッチャー陣で頑張ります」と語ってくれた。

第四週1日目
対帝京大学 0対1
厚い雲に覆われた4月27日、牛久市運動公園野球場では帝京大学との戦が行われた。筑波大学のホームであるこの球場の三星スタンドは、地域の人々やバスツアーの参加者でフューチャブルーに染められた。この大応援団の前で、筑波大学は猛攻を見せる。初回に1点を先制すると、続く二回には二死満塁から三番串田（体育3年、千葉・県立船橋高）のタイムリーヒットなどで2点を追加。さらに三回にも四番田中の2点タイムリーと三番若狭（体育4年、愛媛・今治西高のタイムリーツーベース）で3点を奪い、三回まで6対0と帝京大学を突き放す。先発の村木は六回まで三振で、ピンチを切り抜けた。その後筑波大学は八回に追加点を奪い、藪崎と奈良木（工3年、広島・県立府中高）の投手リレーで試合を9対1で締めくくった。

だが、その後は二者連続三振で、ピンチを切り抜けた。その後筑波大学は八回に追加点を奪い、藪崎と奈良木（工3年、広島・県立府中高）の投手リレーで試合を9対1で締めくくった。



第七週2日目
対東海大学 5対0
筑波大学は最終週末（5月19日）には東海大学との大一番を迎えた。前日の試合で筑波大学は敗戦しており、この試合に敗れると目の前で東海大学の逆転優勝が決まるという負けられない戦いであった。試合は一回から動き出す。一回表、東海大学の先頭千野が左中間を破るスリーベースを放つと、続く串畑がレフトへのタイムリーを放ち先制する。東海大学はその後も二回と三回に追加点を挙げ、筑波大学を突き放す。対する筑波大学も反撃の糸口をみつけたところであるが、東海

で6対0と帝京大学を突き放す。先発の村木は六回まで三振で、ピンチを切り抜けた。その後筑波大学は八回に追加点を奪い、藪崎と奈良木（工3年、広島・県立府中高）の投手リレーで試合を9対1で締めくくった。

なお、筑波大学から今季のベストナインに3名の選手が選ばれ、投手部門に村木文哉選手、外野手部門に若狭大地選手、指名打者（D）部門に田中力哉選手が輝いた。今季は自慢の投手陣以外にも、中軸を中心に打線の爆発力が随所に見られた。悲願のリーグ優勝、そして日本二に向けて、硬式野球部は戦い続ける。（松本樹）



だが、その後は二者連続三振で、ピンチを切り抜けた。その後筑波大学は八回に追加点を奪い、藪崎と奈良木（工3年、広島・県立府中高）の投手リレーで試合を9対1で締めくくった。

なお、筑波大学から今季のベストナインに3名の選手が選ばれ、投手部門に村木文哉選手、外野手部門に若狭大地選手、指名打者（D）部門に田中力哉選手が輝いた。今季は自慢の投手陣以外にも、中軸を中心に打線の爆発力が随所に見られた。悲願のリーグ優勝、そして日本二に向けて、硬式野球部は戦い続ける。（松本樹）



ラグビーW杯今夏日本開催

マネージャー語る
ラグビーの魅力



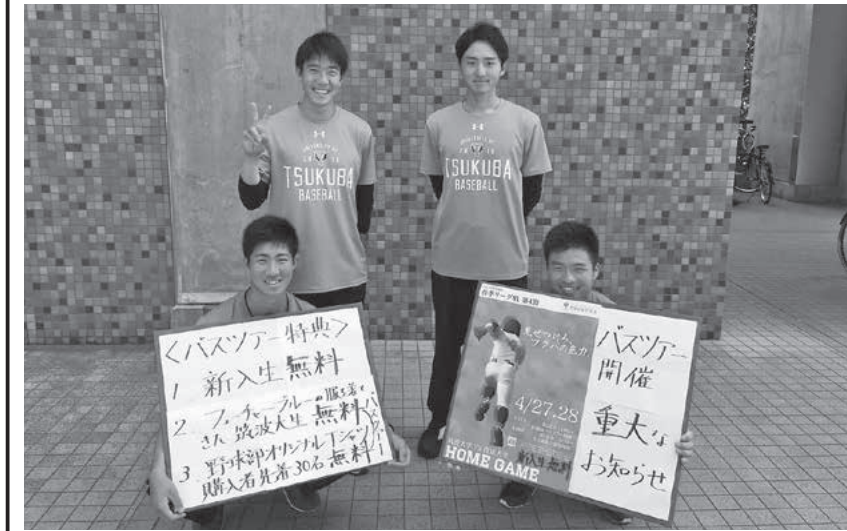
来る9月、日本においてアジアで初めてのラグビーW杯が行われる。メディアにおいても連日取り上げられているのをご覧の方も多いに違いない。そんな中、我が筑波大学にもラグビー部が存在する。本誌においてその活躍を多く取り上げてきたが、今回はそんなラグビー部の緑の下で力持ちとなっているマネージャーの方々とお話を伺うことができた。今回お話を伺ったのは、伊藤和さん(看護4年)、池田友海さん(社会学3年)、朝倉希美さん(社会学2年)、齋藤舞さん(生物1年)の4人である。

まずは、なぜラグビー部のマネージャーになったのかというきっかけを伺うと、伊藤さんと池田さんは、「親や兄弟の影響」ということ、「かつてラグビーの試合や筑波大学の試合を見て魅了された

から」と教えてくれた。また、齋藤さんも「高校のときラグビー部のマネージャーをしていて今もラグビーに携わりたくて筑波にきた」と答えており、お三方は大学入学前からラグビーについて知っていたようだ。一方、朝倉さんは、「私は、スポーツをしている人のサポートがしたくてマネージャーをやりたいと、探していたらラグビー部に出会った」と話しかみながら教えてくれた。入部当初はルールも知らなかったという、周りからは驚かれたそう。では、いつ彼選手たちを間近で見ている魅力が考えられるラグビーの魅力とはどのような所にあるのだろうか。伊藤さんは、「体型的にも能力も違う人たちがいて、飽きないところを見ているラグビーの試合や試合後の練習は、選手関係なく、よりよい部にしていくという思いが伝わってきた。最後に、伝えたいことをお



「部」を盛り上げる！
— 硬式野球部 広報 —



大学スポーツを盛り上げたい。その声をあげる大学生が数多く見受けられる今日、国立大学でありながら世界レベルの選手が揃う筑波大学でも、大学スポーツの価値向上に向けて取り組む団体が多く存在する。その中でも、2019年度新チーム始動から新たに発足した硬式野球部の広報・企画部局の取り組みについて紹介した。

今回、部長として広報・企画部局を引っ張る大橋拓哉さん(体育4年、愛知・刈谷高)にお話を伺うことができた。硬式野球部の魅力・価値向上を目的として大きく掲げている広報・企画部局発足のきっかけについて「もともと選手としてチームの運営に携わりたかった」と振り返った。広報・企画部局が発足するまでは、マネージャーが広報活動を一任していたそう。マネージャーの仕事量も多く、運営や広報に選手が関わることにより盛り上げることができるのではないかと考えたのがきっかけという。

活動を開始するにあたって年間の計画を立て、オープン戦やリーグ戦と同様ホームゲームにも力を入れていこうと考えたそう。そこで、4月27日、28日に牛久運動公園野球場にて行なわれたホームゲームでの具体的な取り組みについて伺うと「ホームゲーム用のポスターを作成し、学内に貼った。リーグ戦のポスターは近隣の店舗などに貼ってあるが、ホームゲームのポスターはこれまでになかったと思う。そこからホームゲームがあるのを少しでも多くの人に認知してもらいたい。認知してもらおうというところで、チラシを作った。ゆいまりで配布をし、学内での口コミを狙った広報活動も行なった。あと、AD(アシスタント・マネージャー)との取り組みの中で、バスツアーを開催して新入生に野球を観に来てもらおうという企画を行なった。バスツアーをきっかけにして硬式野球部に興味を持つてほしい」と答えた。事前の広報活動に力を入れた結果、ホームゲーム当日の手応えは悪くはなかったようだ。

チームとして「リーグ優勝・日本一」を掲げているが、大橋さんはもっと大きなところを見たいという。「大学野球は高校野球やプロ野球と比べると、まだ認知度が低い。しかし、実際に来てもらえば面白いと思うし、まずはいかにきっかけ作りをして球場に足を運んでもらえるか。そして応援したいと思う一番のきっかけとして、プレイしている選手を知っている、あの子が出てくるから今日試合に行ってみようかなと、そういう人との繋がりが大きいと思う。他の部活動との繋がり、つば市の地域の人との繋がりをもち、スポーツを盛り上げていける存在になれるようにしていきたいと思う」と力強く語ってくれた。

つばから大学スポーツへ、大きな架け橋となることを期待したい。(舩本暖葉)

結果一覧

【蹴球部】	
第93回関東大学サッカーリーグ	
第1節 筑波大○5-1駒澤大	第6節 筑波大○7-2帝京大
第2節 筑波大△2-2桐蔭横浜大	筑波大○4-3日体大
第3節 筑波大○1-0流通経済大	第7節 筑波大●1-2東海大
第4節 筑波大○2-1明治大	(1日目) 筑波大●0-5東海大
第5節 筑波大○1-0順天堂大	(2日目) 筑波大○0-5東海大
第6節 筑波大△0-0中央大	最終結果 8勝4敗、勝ち点4、第2位
第7節 筑波大○1-0流通経済大	
第8節 筑波大●0-4法政大	
【硬式庭球部】	
2019年度関東学生 テニス・ナメント	
男子シングルス	
優勝 川橋勇太(体育4)	
男子ダブルス	
優勝 川橋勇太／加藤匠巳(体育3)	
【剣道部】	
関東女子学生剣道選手権大会	
第3位 久徳真子(体育4)	
第3位 合瀬未悠(体育4)	
【硬式野球部】	
首都大学野球春季リーグ	
第1節 筑波大○1-0桜美林大	
(1日目)	
筑波大○1-0桜美林大	
(2日目)	
第2節 筑波大●2-5武蔵大	
(1日目)	
筑波大○12-4武蔵大	
(2日目)	
第3節 筑波大○3-2武蔵大	
(2日目)	
第4節 筑波大○9-1帝京大	
(1日目)	
筑波大●1-4帝京大	
(2日目)	
第5節 筑波大 0-0日体大	
(無効試合)	
筑波大○3×2日体大	
【男子バレーボール部】	
関東大学バスケットボール選手権	
筑波大○138-57桐蔭横浜大	
筑波大○75-55神奈川大	
準々決勝 筑波大○96-83日体大	
準決勝 筑波大○86-62大東文化大	
決勝 筑波大●58-66白鷗大	
よって、準優勝	
【男子バレーボール部】	
春季関東バレーボールリーグ戦	
1回戦 筑波大○3-0東京学芸大	
2回戦 筑波大○3-0駒澤大	
3回戦 筑波大○3-2日本大	
4回戦 筑波大○3-1順天堂大	
5回戦 筑波大●0-3専修大	
6回戦 筑波大○3-0慶應義塾大	
【女子バレーボール部】	
春季関東大学 バレーボールリーグ	
1回戦 筑波大○3-0松陰大	
2回戦 筑波大○3-2国士館大	
3回戦 筑波大●1-3国士館大	
4回戦 筑波大●0-3早稲田大	
5回戦 筑波大○3-2日体大	
6回戦 筑波大○3-2東海大	
7回戦 筑波大●1-3桜美林大	
8回戦 筑波大○3-1順天堂大	
9回戦 筑波大○3-2嘉悦大	
10回戦 筑波大○3-1東京学芸大	
11回戦 筑波大○3-0日本大	
最終結果 8勝3敗、第3位	
【ラグビー部】	
関東大学春季大会	
1回戦 筑波大○47-36法政大	
2回戦 筑波大●19-68明治大	
3回戦 筑波大○85-7青山学院大	
4回戦 筑波大●28-49日本大	
現在、2勝2敗	



筑波スポーツ

スポーツ観戦が好き

写真を撮りたい

マスコミに興味がある…

様々な動機で活動しています!

編集部

編集員募集中

第24回

リリースコラム

こんにちは。編集部3年の外本です。1年ぶりにコラムが回ってきましたが、何を書こうか迷っていたら締め切り当日となっていました。いつもギリギリの進行で申し訳ない限りです。

最近のかねてから好きだったJリーグの試合観戦のためにスタジアムを巡っています。今月もまだまだ試合観戦を控えているのでとても楽しみです。欲を言うならば、つくばから近いところにもっとスタジアムを建設していただきたいですね。それはさておき、応援しているクラブの試合観戦はそれだけで楽しいのですが、選手はもちろん監督やスタッフ…と至る所に筑波大学との縁を感じられてさらに楽しさが増えています。

広報活動を通じて

社会とのつながりを持てる活動も行っています

お気軽にご連絡ください!

編集作業で忙しい時期もありますが、

ほかのサークルとかねて所属している人もいます!

ミーティングへの顔出しもお待ちしております!(^^)

筑波スポーツ編集部

■活動場所/体育系サークル館2階 編集室

■活動日時/毎週水曜日18:30~(相談可)

■連絡先/松本 樹 itsuki.m78tsukuspo@gmail.com

編集部 tsukusupo@hotmail.co.jp

編集後記

7月の下旬に発行されるころには、梅雨はすでに終盤になっているのでしょうか。今年の夏は、元号が令和になつてから初めての夏です。平成「最後」の夏はあんなにも感傷的になつていったのに、令和「最初」の夏はこうも淡々としているのかと思うと、「最後」という言葉の持つ魅力に気づかざるを得なくなります。

さて、東京オリンピック・パラリンピックの開催まで、一年となりました。もうそんなに近いのか、まだ、そんなに遠いのかと、考えは人それぞれかもしれませんが、筆者的には、もうそんなに間近になったのかという印象です。東京オリンピック・パラリンピックを迎えるとき、私は4年生です。就活も終わっている頃でしょう。国家試験に向けて勉強を始めた頃かもしれません。どのような夏になるのでしょうか。忘れない「夏」になるのでしょうか。でも、ひとつ言えることは、日本が暑い夏になることには変わりはないと思います。

そんな一年後の日本の「夏」に思いをはせながら、令和「最初」の本誌でも熱いスポーツマンたちの活躍を載せていきますので手に取っていただけたら幸いです。

(進沼礼子)

編集長

松本樹(比文3年)

広報

菊田文香(図情4年)

会計

進沼礼子(看護3年)

編集スタッフ

島田すみれ(比文4年)

外本暖菜(図情3年)

西村生(体育3年)

篠崎陽介(図情2年)

発行所/筑波大学体育会
(TEL.029-853-2589)
発行人/長谷勇希
編集/筑波スポーツ編集部
tsukusupo@hotmail.co.jp
責任者/松本樹